

# 2021年度 事業計画



- |   |   |   |
|---|---|---|
| <b>1 リーダー育成事業</b><br>・LEP (年間リーダー育成プログラム)<br>・GET (学生向け東南アジア研修) | <b>2 国際交流事業</b><br>・AJAFA-21との交流促進<br>・さくらサイエンスプログラム (アジアから来日研修生受け入れ) | <b>3 社会啓発事業</b><br>・若者力大賞<br>・講演会 (異業種交流研修会、受賞者講演会、アジアの会)<br>・広報活動 (広報誌、ホームページ、SNS) |
|---|---|---|

事業はすべて公益事業とし、3つの事業を柱として遂行します

## 入会のご案内

当協会は、協会の活動にご賛同いただく皆様からのご支援で運営されています。

**[年会費]** 法人会員：600,000円 個人会員：一口5,000円

法人の方は所得控除の適用となります。(非課税扱い) 個人の方は所得控除・税額控除のいずれかを適用できます。ご入会希望の方は下記ホームページよりお問い合わせください。



ホームページはこちら

〒105-0002 東京都港区愛宕1-6-7 愛宕山弁護士ビル8階 TEL: 03-6441-0581 FAX: 03-6441-0582  
 HP: <https://www.youthleader.or.jp> Mail: [day@youthleader.or.jp](mailto:day@youthleader.or.jp)



若者力は明日の社会のエネルギー

# YOUTH LEADER

Development Association for Youthleaders

## 2021 SPRING Vol.149



公益財団法人  
**日本ユースリーダー協会**  
 DEVELOPMENT ASSOCIATION FOR YOUTHLIERS

〒105-0002 東京都港区愛宕1-6-7  
 愛宕山弁護士ビル8F  
 TEL: 03-6441-0581 FAX: 03-6441-0582  
 web: <https://www.youthleader.or.jp>  
 mail: [day@youthleader.or.jp](mailto:day@youthleader.or.jp)

## CONTENTS

特集  
 役員座談会 ..... P.02-06

社会啓発事業  
 第12回 若者力大賞  
 受賞者紹介 ..... P.07-09

2020年度活動実績 ..... P.10-11

2021年度事業計画 ..... P.12



## 役員座談会

● 日時：2021年3月12日(金) 10:30-11:30 ● 場所：東京商工会議所

昨年5月顧問に就任された、三村前評議員会会長を迎えて役員座談会を開催しました。終始なごやかな雰囲気の中で、設立50周年を超えさらなる飛躍を目指す当協会の役割や未来に向けた建設的な意見が交換されました。

### 参加者

- 三村明夫 当協会前評議員会会長、顧問  
日本製鉄(株)名誉会長  
日本商工会議所会頭
- 永野 毅 当協会評議員会会長  
東京海上ホールディングス(株)  
取締役会長
- 隈丸優次 当協会理事長  
元駐カンボジア大使
- 小室誠治 当協会副理事長  
丸紅建材株式会社元会長



## 「日本が危機に至った時に、力を発揮しているのは若者だ」

小室副理事長：本日はご多忙にもかかわらず、お集まりいただきありがとうございます。司会を務めます副理事長の小室です。それではさっそく対談に入らせて頂きます。当協会の目的は「これからの日本、世界の将来を担う若者のリーダー育成支援」が中心です。そこで皆さんに今の日本の若者についてお尋ねします。昨年1月に異業種交流研修会で元外務省国連代表大使の赤阪さんに講師をして頂いた時に見せていただいたデータでは、10代後半から20代後半の若い人達への質問で、「外国へ留学したいか?」「40歳になったとき世界で活躍しているか?」という項目に「はい」と答えた割合が、日本は主要10カ国中一番低いのです。また「自分の国の将来をどう思いますか?」という質問に「良くなる」と答えた割合も日本が一番低い。そこで日本の若者についてどのようにお考えか、お話しいただけますか。



三村前評議員会会長：今回コロナがあって、昨日は東日本大震災の10周年でした。こういう異常事態とか日本が危機に至ったとか将来が非常に不安になっている時に誰が一番力を

発揮するかというと、それはやっぱり若者なのです。東日本大震災の後、中教審の会長をやっていて、東北の教育委員会の人から「今回の危機に際しての子供たちの振る舞いは最高だった」「親を励まし皆を助け、といった行動が見られて誇りに思う」という発言がありました。福島や東北は再建が大変ですが、地方創生がうまく行っている所の共通要素は3つ程ある。第一は地域の関係者が連携して一緒にやっていること。第二に教育・結婚・子育てなど若者や現役世代への支援策を講じていること。第三に地域にある資源を徹底活用していることです。もう一つ、今はコロナで経営がみなさん大変なのです。販路も業態もユーザーの状況も変わっているので、自分の会社を変えなければいけない。それで自分の会社を変えようとしている経営者の比率を年代別に見ると、経営者が若いほど自分の会社を変えようとする意欲があり実行している、というデータが出ています。ですから、先程のデータは若者の責任ではなくて、将来に希望を持てる国を作り上げていない、我々大人の責任かもしれないと思うのです。日本が大変になった時には将来を創り上げるために日本の随所で一所懸命頑張っている若者が非常に多いのも、事実です。今のようなデータは確かにありますが、私は、全然絶望していませんよ。

小室：なるほど、非常に頼もしいご発言ありがとうございます。永野会長、如何ですか。

## 役員座談会



## 「気づきの場を大人がもっと提供すれば、若者は勝手に育つ」

永野評議員会会長：僕は基本的に日本の若者は非常に優秀だと思います。日本の若者は社会に対して何か貢献したいという気持ちが強いです。コロナの後の社会がどうなるかということが今盛んに論議されていますが、ビジネスの世界でも、社会を良くしようとか我々が生かされている地球を良くしようとか、あるいは次世代のために何かしようとしなければならなくなっているのは間違いありません。そういう意味では今の若い人たちが、これからの世代を支える意識を持っていることは間違いのないと思います。ただ、そういう意識の高い若者と、幸せな社会の中で刺激のない所で育ってきている若者にはかなり差が出てきているのではないのでしょうか。大人の責任というのは本当にその通りですが、「気づき」ということが大事だと思います。気づいている若者がすごく育ちます。ですから気づきの場をたくさん持たせるということがとても大事です。一般的には日本は「平和ボケしている」とも言われる、けれども震災の時などに大きく強く気づいて「自分たちが社会に対して何かしなければならぬ」という意識が出てくる。先程のデータで海外に行く人が少ないという事がありました。もっと海外の若者と交流をさせて、自分たちの世界の中での位置づけや、同じ年代の人たちが他の国でどんな思いで暮らしているのか等の気づきの場を大人がもっとたくさん提供していけば、若者は勝手に育つと私は思います。ですから、大人がもっと今の日本の若い人たちに色々な刺激や気づきや、あるいは活躍する機会を与えるということがとても大事だと思います。



小室：永野会長は以前から、いかに気づきの場を作っておけるか、それが役目だとおっしゃっていますね。隈丸理事長はいかがでしょう。

隈丸理事長：私も、二つの面で我々大人の責任があると思います。一つは若者がまさに今与えられている環境の中で育ってきたわけですから、その環境を作ってきた我々に責任があります。もう一つは、これからどうするかを考えた時に、若者をもう少ししっかりとガイドしていく努力を我々がもっと真剣に行うべきだと思います。最近タイの若い人と話す機会があったのですが、彼らと「日本の若者とどのように交流するか」という話をしていたら、「いや、若い



人との交流の機会はたくさんあります。むしろ我々は、もっと世代を越えて大人の人たち、シニアの人たちと意見交換をしたり、教えてもらったり、理解を深めたりすることに関心があります」と言うのを聞いて「確かにそうではないか」と思いました。我々が若い人に会って、色々な問題や将来について意見交換をして、若い人を育てる場面を作る役割を積極的に果たすべきだと考えたのです。



小室：そういう中で、GET (Global Education Training) は、まだ一度も海外に行ったことのない日本の若者にも、とにかく一回海外を見せようじゃないか、と背中を押すという意思で始めたか聞いていますが、それが今までもずっとASEAN 各国向けに続いています。これをこれからも続けていきたいと思うのですが。

三村：一時、「グローバルリーダーが育たない」と言う議論がありましたね。私は、異なった環境に置かれて、風土や常識が全然違う中でも相手の言うことを理解して自分の考えをきちっと表現できる人間、これがグローバルリーダーだと思うのです。人は、異なった環境に置かれてその中でのたうち回りながら悩むことで、自分の考えを主張できるように育っていくのだと思います。そうするとまず大事なことは異なった環境、日常と全然違う環境に若者を送り出して、その中で自分で考えさせることだと思います。今まで外国に行ったことが無い、パスポートも持たないことが無い高校生、大学生を海外に行かせ

て、彼らに日本文化や、日本の良さを主張させる、そして帰ってきて向こうの文化の良さをみんなに発表する、という大変なプログラムを我々がやっているのですが、思いがけない大きな効果を上げていると思います。生徒を海外に出した学校の先生が「GETに行く前と行った後の生徒の様子が全然違う。ものすごく育って帰ってきた」と言ってくれる。それを我々は意図した結果が出ていると思って非常に喜んでいるので



## 役員座談会



す。我々のように現地にネットワークを持って、受け入れ態勢がしっかりしている組織でないと、親御さんが心配するわけですよ。これは日本ユースリーダー協会が、AJAFA-21 というネットワークを持っているから出来るのです。これはやって本当に良かった。コロナでどうなっているのか、ちょっと心配していたのです。

小室：その安全のために現地で受け入れる側が、AJAFA-21 という団体です。先日この AJAFA-21 の ECM (Executive Council Meeting) を、オンラインでやりました。

## 「ASEANとの交流で、日本の若者が受ける刺激は大きい」

隈丸さん、AJAFA-21 についてお話しください。



隈丸：AJAFA-21 は、ASEAN10カ国のJICAの研修生の同窓会です。ある期間日本で研修を受けて、そして本国に帰ってからASEAN各国で作った同窓会がAJAFA-21です。我々が東南アジアに重点を置く理由の一つは、ここは日本との関わりが大きい地域ですし、ビジネスも含めた色々な形で日本のプレゼンスが深いですから、まず東南アジアを日本の若い人たちに知ってほしい。

そしてもう一つはAJAFA-21に世話してもらおうと、彼らの周辺にいる多くの人々が知日派



や親日派なので日本との関係がスムーズにいきやすいので、日本の若者が行ったときに良い経験を生むことができる。特にアジアはこれからも日本との関係を深めていく地域ですから、是非若い人たちにアジアに対する視野を広げてもらい、これからの国際情勢もしっかり読んでほしいのです。その中でASEANを出発点にして欲しい。しかし、決してそこで止まるわけではありません。我々のプログラムでの経験をスタートにして、その次のステップで他の所に行く

小室：一所懸命、オンラインでやっています。

三村：工夫して、何らかの形で続けることが大事ですね。非常に良いプログラムなので、コロナの状況が改善したら是非リアルで再開できれば良いですね。

永野：今の話は、一回でも子供を危ない目に遭わせてしまったら、悪い評判が立ってしまうと思うのです。親御さんは、やはり何よりも心配しているから。我々が丁寧にプログラムを作って、現地側で受け入れ準備をして、子供たちに安全に気づきの場を与えて帰ってきてもらう、素晴らしい事だと思いますよ！

こともありますし、留学することもありますし、就職を海外ですることもある。その為の良い出発点として、AJAFA-21 というのは重要だと考えています。

永野：GETを受け入れてくれるAJAFA-21のメンバーは、過去に一度でも日本に来た方が歓迎してくれるのですか？

隈丸：その方たちが中心となって主催してくれています。ホームステイもやります。

小室：ホームステイが大きいのです。やはりわかっている人が受け入れてくれるので、その安心感もあって学生たちには貴重な体験になります。

永野：GETというのは、キャッチフレーズが「飛び出せ若者」ですね。また、三村さんが「若者は日本の宝」だとよくおっしゃっていた。やはり、海外には自分たちの同世代でも色々な違った考え方をを持った人間がいる、そして、その違いを理解して帰ってくる。それから、もう一つは日本の良さとか、



自分たちのアイデンティティをきちんと話せる能力、文化を含めて身につけるトレーニングになる。これは国際交流のイロハだと思いますよ。そういう意味では、GETがきっかけになって自分の今があるという人がこれからも出てくれると良いなと思いますね。

隈丸：今はアジアの若者が非常に元気です。日本の若者が彼らと接触し一緒に交流した時に、アジアの若者から受けるエネルギーはもの凄いなと思います。

小室：実は2015年、つまり6年前に「海外青年研修事業30周年記念シンポジウム」と称して、AJAFA-21の代表の人たちが日本に来て、中曽根(故中曽根元首相)さんの所に挨拶に行ったり、外務省やJICAで歓迎レセプションやミーティングを行ったりしました。それでいよいよ今度は40周年が4年後の2025年なのです。

## 「若者力大賞は、日本ユースリーダー協会の思いの集大成」

小室：最後に若者力大賞についてですが、これは日本ユースリーダー協会の設立40周年を記念して、三村さんが創設された事業で、今年は表彰式をコロナの影響で5月に延期しました。若者力大賞に対する意気込みは、永野さん如何でしょうか？

永野：これは2009年に三村さんが会長に就任された年に発足した、日本ユースリーダー協会の思いの集大成です。これを何としても将来に向けてもっと発展させていきたい。その意味は、単にクローズの世界で表彰して素晴らしいということだけではなくて、そういう若者がいるという気付きをもっと色々な、一般の若者に広げていく努力をしてい

三村：30周年の時に僕がやったのは、AJAFA-21の人たちが来るというので、中曽根さんのアポイントメントを取ることでした。彼としても、自分がスタートしたという思いがあるので、喜んでお会い頂いた記憶があります。それでAJAFA-21の人たちもみんな喜んで帰りましたね。



小室：AJAFA-21のOBの人たちが「中曽根さんにお会いできた」と喜んでいただいていたという話はよく聞きます。1984年に「21世紀のための友情計画」を中曽根さんがスタートされて、その延長が今のAJAFA-21で続いています。

三村：その先人たちのレガシー、大変なものですよ！その恩恵を我々がこういう形で享受できているわけですからね。

永野：人と人の信頼は、将来に向けての最強の安全保障であると、緒方貞子さんもおっしゃっていましたが。結局人と人の信頼というのが一番大切ですよ。

かなければいけない。選考の基準も、今年から学生の人たちにも関与してもらって、若者から見ると素晴らしい働きをしている若者を表彰することにしました。三村さんたちが10年以上も、本当に光の当たらない中で社会に少しでも良いことをしようという人たちをずっと応援し続けてきているわけだから、さらにこれを発展させていくということをもっと強い形で発信していきたいと思っています。



小室：はい。ありがとうございます。隈丸理事長はいかがですか。

隈丸：一番の柱になっているプログラムだと思います。受賞するような若者が活躍している場面を多くの日本の若者に見てもらいたいし、聞いてもらいたい。そうすることによって、自分の世代の若者が自分の周りの狭い世界ではなくもっと広い世界の色々な所で活躍していることを認識し

## 役員座談会



てほしいと思います。そして大人の人にも是非見てもらって、こういう若者をサポートすることの重要性を是非認識して頂きたいと考えています。これからの日本をまさに担っていく若者をどう応援していくか、ということをお大人やシニアの方々にも、是非しっかり認識をしていただきたいプログラムです。

**永野:** 若者力大賞というのは、私がこの協会に関与させていただき、きっかけになったイベントです。三村さんに誘われて伺った「若者力大賞」に本当に感動して「こんなに社会のために、ひたむきにやっている若者が日本にたくさんいるのだ」と思いました。そこに光を当てているのだということに、すごく感動しました。

**三村:** 我々にとって、非常に意味のあるプログラムだと思いますね。やってみてつくづく思いましたが、受賞者たちが良いことを続けるって大変ですよ！良いことをするために自分の人生の opportunity cost (機会費用)、つまり他に何かやれる機会、そういうことを捨て去りながらある事に打ち込んで、なおかつそれを sustainable (持続可能) にするという努力。一番



## 「時代とともに我々も変化しつつ、若者支援を継続していく」

**永野:** 最後に申し上げますとすれば、この協会は50年の歴史を重ねて去年三村会長から私に引き継がせていただいて、三村さんが作ってくれた礎の上に、時代の変化とともに我々も変化しながら若者を支援していかなければならない。新しい時代をリードしてくれる若者をサポートしていかなければいけない。そのためには我々が、変わっていかなければいけない、意識を変えていかなければいけない、と思います。若い人たちによって、この会をリードしていくというようなことを我々がサポートしていく、絶えず変化を恐れずに、新しいやり方、取り組み、新しいリーダーシップのあり方を追及していきたい、チャレンジしていきたいと思っています。それが、これまで堀添さん(当協会創設者)から三村さんまで歴代つないでいただいたことへの恩返しだと思います。

**小室:** ありがとうございます。では、隈丸理事長にもまとめて頂きましょう。

**隈丸:** sustainability (持続可能性) で良いプログラムを維持していくとともに、時代はやはり変わりつつありますから、その時点時点での新しい状況、新しいニーズを踏まえて我々の必要な改革はしっかりしていく、ということが大事だと思います。我々が公益財団法人として、公益事業をやるにあたって、寄付をしっかりと頂けるように、会員の皆様の力強いサポートを頂きたいと思っております。これからも引き続き良いプログラムを実施していこうと思っておりますので、これからも是非よろしくお祈りします。

**小室:** 本日はお忙しい中、どうもありがとうございました。

## 第11回 若者力大賞 表彰式

主催：公益財団法人日本ユースリーダー協会 協力：学校法人メイ・ウシヤマ学園 ハリウッド大学院大学



難しいのは sustainable にするにはどうしたらよいかということ、みんな悩んでいるわけです。人生における他の選択肢を捨てても、今の仕事を選び努力を続けている。当然悩み、その中でもやはりこれしかないという悟りを開いてずっと続けているという、そういう話を5分にまとめて受賞の後みんな話してくれるわけでしょう、それに凝縮された、なんていうか共感力というのか、素晴らしいものがあります。

**永野:** sustainable な事業というのはとても大事ですね。こういう活動を広くスポンサーの人たちに、こまめに届けていくことによって自分たちも日本ユースリーダー協会を通じて良いことを行っていると思ってもらわなければいけない。そこを三村さんから受け継いで、もっと私が前に出てやらなければいけない責任と感じています。

**三村:** 新しいデジタル化の波の中で、我々がこれをどういう形で活用するというのも一つの課題ですね。オンラインは十分活用しなければなりませんね。



## 社会啓発事業 第12回若者力大賞受賞者紹介

The 12th Youthleader Awards

### 政治を一步先のインターネット社会に連れて行き若者に身近なものにしている



ふるい こうすけ  
**古井 康介さん**(1995年生まれ)  
株POTETO Media 代表取締役

2016年のアメリカ大統領選を目の当たりに体験し「米国の若者が当たり前のように楽しく政治を語り合っている」ことに驚き、大学在学中にグラフィックスや動画を駆使して政治をわかりやすく発信するための会社「POTETO Media」を立ちあげた。「若者は『ネットの町』に住んでいる」と

政府の制度や政治家の政策を SNS で若者に伝えることを目指している。

中学校や高校に出前授業も行っており、政治についてもっと興味を持ってもらえるようにグループワークなどを用いてわかりやすく説明している。「安全保障」や「財政」「格差」などの様々なテーマで、テーマの背景、論点、賛成派/反対派の意見とその功罪を整理して伝え、その上で議論してもらう。「最終的に決定するのは主権者になる



君たちだ。主権者は総理大臣より偉いんだよ」と伝えている。

#### 【実行委員から一言】

「全ての話が面白くわかりやすい」古井康介さん。初めてお会いした時、政治に関わる人なのでスーツで来るのかな？と思っていたら、私服でリュックのサイドポケットにサンダルを挿していらっしゃいました。

理由は「多くの人に会いたいから“フツ軽”でありたい」とのことでした。そのフットワークの軽さで多くの人と会い知識を得て考え、それを多くの人に伝える古井さん。

今回の表彰をきっかけに、主権者教育や政治家の広報活動だけでなく、古井さんの持つ「人に伝える」スキルをより多くの人に知っていただきたいです。

ご自身の夢である「もっと生きたい生き方ができる世の中」の実現に向け、今後のご活躍が楽しみです。

### 法教育を広めることで複雑ないじめの問題の解決を目指している

#### ユースリーダー賞



やまさき そういちろう  
**山崎 聡一郎さん**(1993年生まれ)  
教育研究者

小学校ではいじめ被害者を経験しながらも、中学校では意図せずいじめ加害者になってしまった体験から、いじめは複雑な問題だと認識した。この複雑な問題を自分が生きた時よりマシにして死んだら、「ちょっといい未来を子供たちに託せる」と考え、いじめ問題に取り組む決心をした。「子ども六

法」はいじめ被害を受けている子供たちが大人に声を上げられるようになるようにと考えて作った。六法の条文を子供たちにわかりやすいようにシンプルな表現にすることを目指したが、法律書としての前例のなさや法的正確性を目指す監修の法学者とのぶつかり合いなど様々な苦勞を乗り越えて出版までこぎつけた。

いじめ行為を食い止めることは大前提だとしても、加害者を責めるだけではいじめ問題は解決しない。最前線ではいじめと向き合う教師も含めた当事者のリアルな声を冷静に拾い上げ、解決策や政策の提示につなげられるような「ハブ」として機能したいと考

えている。また今後は、学校や社会の人間関係のトラブルを解決していく力を養う法教育の普及を目指している。

#### 【実行委員から一言】

「子ども六法」の著者でありながら、ミュージカル俳優としても精力的に活動されている山崎聡一郎さん。山崎さんとお会いした時、法教育を始めたきっかけやいじめ問題、若者に向けたメッセージを伺いました。山崎さんの意見は、論理的で且つ様々な分野の知識をお持ちで、納得し共感できるものが多かったです。同世代の素晴らしい活動のお話を聞くことで、やりたいことを見つめ直すきっかけになりました。また、学生からの質問にも一つ一つ真摯にお答えいただきました！

今後は法教育教室の開講を予定しているそうです。法教育と演劇を掛け合わせた企画も計画しており、日本初の小中学生向けの法教育スクールとなるかもしれません！



## 日本の性の課題に性教育を通じて取り組んでいる

### ユースリーダー賞



つるた ななせ  
鶴田 七瀬さん(1995年生まれ)  
一般社団法人ソウレッジ 代表

自分がうけた性被害をツイートなどを通して打ち明ける #MeToo のムーブメントや、性被害の相談を親友からされるなどの出来事を通じ、「自分自身も性被害の当事者として傷ついた経験があった」と気づく。そこから日本での性教育の不足に問題意識が高まり、日本の性教育 NPO でインターンをした後に、ヨーロッパの学校・医療

機関・NPOなどを訪問し、日本の性教育との根本的な違いは「日常に性教育があること」という気づきを得る。例えば、親は子供が小学校に上がる前から、日常的に「イヤな時はイヤって言うていい」「他人からプライベートゾーンを触られたら、逃げて親や先生に言おう」などの話を子どもとして。小学生は図書館でのフィールドワークなどで、性教育の本から「性に関する困ったことを自分で解決する方法」を身につける。家庭では、中学生の女の子が彼氏ができた時に親と避妊具をどうするか話して考えるなど。

そのような気づきから「性教育を日常



に取り入れる」をテーマにした「性教育トイレットペーパー」や「子どもと性の話をする人のためのガイドブック」「大人と子どもに楽しく性知識を得るためのボードゲーム」などの販売を行う等性教育を広める活動をしている。

#### 【実行委員から一言】

鶴田さんは日本で性教育を広めることで、性知識がないために起こる被害者をなくしたいと考え、現在の活動に励んでいます。昨年は、クラウドファンディングで多くの方の寄付を頂いたことで、そもそも性教育に関心がない・性教育にお金を出すことができない方が利用する場所や家庭に直接、性教育トイレットペーパーを届けました。鶴田さんは活動を積み重ねるごとに性教育の需要を感じており、今後は地方自治体に性教育トイレットペーパーを活用した性教育を広めたいと考えていらっしゃいます。

また、性教育以外にもジェンダーについての知識も豊富で、誰もが生き易い世の中になるよう考えていらっしゃいます。

## 一時保護所を子どもたちが安心できる場所にと関係者が集い改善を目指している

### ユースリーダー支援賞(団体部門)



いちほの会  
代表：藤田 琴子さん(1992年生まれ)

「いちほ」は児童相談所一時保護所のこと。保護を必要とする子どもを預かる施設だが、必ずしも安心な場ではない現状を改善したいと活動を始めた。一時保護所の職員、入所経験がある方、児童相談所・児童福祉関係者など問題意識を持つ人々が集まった。交流する中で、背景にある定員超過や人員・研修不足等の課題や、保護所ごとの違いが見えてきた。子どもに厳格なルールを課す施設がある一方で、子どもへ

の受容的な関わりが大切にされている施設もある。

誰かを責めるのではなく、問題を構造的に把握し、職員の葛藤に共感しながら、実践可能な解決策を見出していく。現場の話を安心してできる環境を用意して、なかなか変わらない現場の改善に繋がるアプローチをともに考える機会を創出している。議員からも「話を聞かせてほしい」と声が掛かるなど、現場の声を行政に伝える機会も増えた。代表の藤田さんは社会福祉士として母子生活支援施設で母子家庭のサポートやケアをしている。様々な母子と関わる中で、家庭で虐待を受けていた女の子が言った「一時保護所には二度と入りたくない」という言葉にショック



を受け、研修で出会った仲間と「いちほの会」を立ち上げた。

一時保護所とそれを必要としている子どもと家族への温かい眼差しが社会に根付いていくことで、子育ての負担軽減や虐待等の防止に繋がり、一時保護所を必要とする子どもたちが減っていくと信じている。

#### 【実行委員から一言】

いちほの会は、一時保護所の現状を伝え改善をする活動をしている団体です。お会いした際、一時保護所について何も知らなかった学生にも分かりやすく教えてくださいました。一時保護所のネガティブな現状だけでなく、良いところや前向きに課題に取り組んでいる事例を紹介いただき、お話を伺った後は、私たちも少し当事者意識を持ち課題について考えることができるようになりました。一時保護所は子どもにとって最後のセーフティネットであり保護の入口だと感じました。いちほの会には福祉施設で働いている方が多く、いちほの会の方々とお話しするときはいつも優しく楽しい空気になります。

## 不登校や引きこもりの青少年が学びそして働ける場所を提供している

### ユースリーダー支援賞(個人部門)



しらいし よしかず  
白石 祥利さん(1981年生まれ)  
特定非営利活動法人With優 代表

友人の自死をきっかけに、自分の故郷米沢に不登校や引きこもりの若者のためのフリースクールを立ち上げようと、自分の思いをチラシにして市内を7000軒を自転車で回り、賛同者を募って「With優」を立ち上げた。

2007年8月にフリースクールを開校し、学習・生活支援に着手、その後、子ども達が地域と繋がれるカフェレストランも開始した。

2013年にはフリースクールの卒業生を含めた就労支援、就労後こそ相談出来、繋がり続けられる場の必要性も感じて会員制の居酒屋も始めた。

地域の方にお客さんとして支えてもらいながら若者の自立の支援に努め、さらに今では親が地域の中で孤立せずに気軽に相談に来ることの出来るカフェの運営も始めた。

フリースクールの自主経営は難しいので、地域の企業90社に毎年継続して運営していくための寄付をもらっている。会員制居酒屋の会員数は今では4700人を超えた。

今後は、地域に根ざした活動をしつつ、海外との連携にも挑戦したい。



地域の方の寄付により、月謝を払えない家庭向けの奨学金制度も設立、格差の大きくなる社会の中で地域の方を巻き込み、子どもや若者に挑戦を促すとともに自らの挑戦もつづけたいと考えている。

#### 【実行委員から一言】

「学校に行けなくなっちゃっていい」初めてお会いした時そうおっしゃっていたのは、米沢で特定非営利活動法人 With 優を立ち上げた白石さん。地域に根差したフリースクールの運営や飲食店の経営を行い、そこで引きこもりの方への就学・就労支援を行っています。子ども達はお店で店員としてトレーニングを重ね、フリースクールでは自らのペースで学んでいます。

白石さんの活動はアクティブで、子ども達と一緒に新潟県まで100kmのサイクリングを行ったりしています。そんな白石さんは、お会いした時も終始こちらの話に聞き入り、自身の話は優しく伝えてくれました。子どもと向き合い、子どもと共に未来を視る方です。

## ガン患者のいる家庭の子供たちの心の支援をアートで実現しようと活動している

### 実行委員会特別賞



なかがわ はなの  
中川 花乃さん(2001年生まれ)  
支援団体StellabO 代表

小学校6年生の時に父親が希少ガンを患った。その時、自分の不安や孤独は「押し殺さなければ」と友だちとも遊ばず、母親にも相談ができなくなってしまった。

入院中の父親に絵手紙を送り続けて、自分のバランスをなんとか保っていた。その経験から、親がガンになっ

てしまった子供たちの孤独を救うために高校1年生の時に StellabO という団体を設立して活動を始めた。今まで2つの家族に寄り添って、家庭を訪問して子供と絵を描いたり折り紙をしたり、親子の時間を作ったりしてきた。日本では個人情報保護の観点から、なかなか支援を必要としている家族に会えない。そうした課題を持ってカナダの高校に留学した。

カナダでは病気に関するサポートが進んでいた。がん基金の人に取材したり、高校の校長先生に掛け合ってガン患者のサポートの部活を立ち上げたりした。部員は19人集まって、募金活動やがん患者に贈る折り紙を折ったりした。

カナダでのがん患者へのサポートに関する前向きな



姿勢を見て、日本でもこのようなことを実現しなければと思った。

今後は団体を NPO 化して、アートセラピーを使ったがん患者の子供たちの支援をしていきたい。

#### 【実行委員から一言】

「ともに生きる、ともに支える」これが StellabO のビジョンです。「親や身近な人ががん罹りしても、孤立せずにみんな支え合える社会を作りたい」そう語る中川さんには、計4人の平均年齢19歳の温かい仲間がいます。集まった経緯はバラバラで出会いは「偶発的」というメンバーは皆このビジョンに共感し同じ方向を向いています。

中川さんには「偶発的な出会いと交流に溢れるマラソン大会を開催する」という夢があるそうです。誰もが楽しめる大会を想像しています。がん向き合うために必要な「想像力」を誰よりも働かせているのは間違いなく中川さんだと感じました。

# 2020年度活動実績

Activities report of 2020

※@以下に場所の表記があるものを除き、すべてオンライン開催

4月

15● — GET2018春インドネシア同窓会・国際交流会  
GETに参加した国内外の学生達での交流。緊急事態宣言下でも、自宅にいながら国際交流を楽しんだ。

17● — 第1回運営幹事会  
2020年度初めとなる運営幹事会はオンラインで実施。以降の会議も原則オンライン開催。

30● — 第1回理事会(書面決議)  
・2019年度の事業報告 ・収支決算の承認

30● — GET2019夏ベトナム・インドネシア合同同窓会



5月

16● — GET2019春タイ同窓会・国際交流会

19● — 第2回運営幹事会

20● — 定時評議員会(書面決議)  
・2019年度の事業報告 ・収支決算の承認 ・任期満了に伴う役員(評議員・理事・監事)の改選

23● — AJAFA-21各国幹部との意見交換会  
各国における新型コロナウイルス感染症の状況やコロナ禍での活動について意見交換。

27● — GET2018夏ベトナム同窓会



6月

1● — 臨時評議員会、臨時理事会(書面決議)  
・評議員会会長、副会長、代表理事の選任

19● — 第3回運営幹事会

7月

17● — 第4回運営幹事会

23● — 第1回若者力大賞実行委員会  
第12回若者力大賞表彰式に向けて、理事・社会人・学生で構成された実行委員会が発足。

25● — GETスタッフ対談(第1回 Spice Up Lanka (Pvt) Ltd Managing Director 神谷政志氏)  
GET参加学生とスタッフが、学生時代のことやキャリアについて話す懇談会を開催。



8月

6● — 第2回若者力大賞実行委員会

15● — GET2020夏オンライン体験(ベトナム)  
16● — ベトナムと日本の学生を対象に、国際交流やJICAベトナム事務所による活動紹介  
22● — など、3日間のオンライン海外研修を開催。

20● — 第3回若者力大賞実行委員会

28● — 第5回運営幹事会

30● — 第4回若者力大賞実行委員会 @赤坂区民センター(港区)



9月

7● — 第5回若者力大賞実行委員会

18● — 第6回運営幹事会 @麻布区民センター(港区)

21● — 第6回若者力大賞実行委員会



26● — 第7回若者力大賞実行委員会 @国立オリンピック記念青少年総合センター(渋谷区)

10月

4● — GETスタッフ対談(第2回 NPO法人しゃらく学生コーディネーター 唐津周平氏)

16● — 第7回運営幹事会 @赤坂区民センター(港区)

19● — 第8回若者力大賞実行委員会

23● — 第2回理事会

26● — AJAFA-21公式会議



11月

9● — 第9回若者力大賞実行委員会

11● — 退任役員慰労会 @芝パークホテル(港区)  
長きにわたり評議員・理事として多大な貢献をされた退任役員への慰労会を開催。活動に支援いただく会員企業の方々も参加され、コロナ禍で感染症対策をしての開催だったが盛会のうちに終了した。



20● — 第8回運営幹事会

28● — AJAFA-21公式会議

12月

4● — 若者力大賞審査委員会 @東京海上ホールディングス株式会社本社(千代田区)  
実行委員会が選考手順に則って選考を進めてきた最終選考候補者について、審査委員による会議を開催。

6● — 国際交流イベント(インドネシア)

10● — 若者力大賞イベント  
「各界のリーダーと語る、今夜限りのスペシャルコラボ」  
「受賞者x学生」をテーマに受賞者対談や学生との交流会を実施。



14● — 第10回若者力大賞実行委員会

18● — 第9回運営幹事会

1月

16● 17● — さくらサイエンスプランオンライン研修(ベトナム)

22● — 第10回運営幹事会

23● — AJAFA-21公式会議

29● — 臨時理事会 ・事務局移転に関する承認決議。



30● — AJAFA-21臨時会議

2月

8● — 第11回若者力大賞実行委員会

16● — 第12回若者力大賞表彰式 延期:2021年5月11日 @六本木ハリウッドホール(港区)

16● — 第12回若者力大賞実行委員会

19● — 第11回運営幹事会

20● — 事務局移転作業 港区赤坂から港区愛宕に事務局を移転。

21● — 国際交流イベント(フィリピン)

24● — 第13回若者力大賞実行委員会



27● 28● — 第33回AJAFA-21 ECM(Executive Council Meeting)

3月

12● — 役員座談会 @東京商工会議所(千代田区)

12● — 第12回運営幹事会

14● — 第14回若者力大賞実行委員会

19● — 第3回理事会

27● — AJAFA-21公式会議



27● 28● — GET2021春オンライン研修(東ティモール) →現地の新型コロナウイルス感染症拡大を鑑み中止